

新春
ごあいさつ

「世界の文化首都・京都」元年に

文化×産業の創造



会頭 立石 義雄

オムロン株式会社
名誉会長

「知恵産業の森」を実現したいと思います。

本年は、2020年の東京五輪を見据えた「京都文化力プロジェクト」が本格的に始動し、文化芸術による交流を促進する「東アジア文化都市2017」をはじめ、市内各地でさまざまな関連イベントが行われます。また文化庁全面移転に向けた先行組織として「地域文化創生本部(仮称)」が設置されるなど、文化をテーマに重点的に取り組む1年となります。そこで今年を「世界の文化首都・京都」元年と位置づけ、京都の文化や産業の魅力を高め、広く発信することで、人、文化、産業の交流をさらに拡大したいと考えています。

また、京都経済センター(仮称)については、価値創造都市の実現に向け「京都経済百年の計」にふさわしいイノベーションが創発される拠点として整備したいと考えています。未来に向けた創造的な知恵の連携拠点として、世界への情報発信基地となるよう、オール京都の力を結集して、竣工に向けて邁進してまいりたいと思います。

本年が皆さまにとって、実りある年となることを祈念いたしますとともに、本所活動への一層の参画をお願い申し上げます、新年のあいさついたします。

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

今年の干支は「丁酉と酉」であり、植物が育ち、果実が実っている様子を意味すると言われています。京都経済はもちろん、日本経済にとって、新たな価値創造に向けたオープンイノベーションに挑戦し、未来に向けて飛躍できる1年にしたいと思っています。

昨年は、文化庁の京都移転の決定や、京都経済センター計画が関係者の合意のもと動き出すなど、オール京都で取り組んできた成果が実る1年となりました。本年は、こうした動きを具体的に進めていく年にしたいと考えています。

オール京都で策定した「京都ビジョン2040」では、ありたい姿のひとつに「世界の文化首都・京都」を掲げています。京都は日本文化の中枢都市であり、人々の生活に文化が息づき、貴重な文化財やそれらを支える伝統産業が集積しています。文化庁

を迎えることによって、日本文化の振興・発展に京都として貢献できるとともに、伝統産業の振興や文化を活かした観光振興、まちづくり、人材育成など、幅広い分野で文化庁と連携して取り組めるのではないかと期待しています。

文化を活かした地方創生や、新産業の創造を成功させるヒントは、「知恵産業」にあります。昨年11月に発表した「京商ビジョンNEXT」では、「知恵の集積」に向けた重点プランの1つとして「文化×産業の創造」を掲げています。京都の文化や知恵を付加価値の源泉として、新たな価値創造やイノベーションに挑戦し続けることが、価値創造都市・京都の実現に向けた地域の未来を切り拓きます。

文化庁移転を機に、文化・芸術をはじめ、観光・おもてなし、健康・医療・福祉など、さまざまな分野で、伝統産業から先端産業までの幅広い知恵ビジネスが群生する

新春ごあいさつ

自らの足で立つ気概を



副会頭
柏原 康夫
株式会社京都銀行
取締役相談役

明けましておめでとうございます。
英国のEU離脱、トランプ米新大統領の誕生、反グローバル化のうねりなど、想定外のまさか
に翻弄された昨年の世界。わが国に目を転じれば、アベノミクスが目指したデフレ脱却と経済
の好循環実現の手応えは今一つで、片や、金利、
株価、企業再編、賃上げに至るまで、官製相場、
官の介入が目につきます。
しかし、今肝腎なことは、民間こそが成長戦
略の主体として、デフレ下で染みついた縮み志
向やリスク回避の選択から脱却し、果敢に新た
な価値創造に挑戦する姿のみならず、
「高く登ろうとするなら、自分の足を用いよ。
引き上げてもらおうとするなら(ニーチェ)との
決意を胸に、官に待たず、自ら未来を切り拓く
気概に燃えて、着実な一歩を刻む新年としたい
ものであります。
本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

大きな変化の時代にこそ多様な価値観とチャレンジマインドを!!



副会頭
堀場 厚
株式会社堀場製作所
代表取締役会長兼社長

謹んで新春のごあいさつを申し上げます。
昨今の世界情勢を見ていると大きな変化のう
ねりを感じます。反グローバル化やポピュリス
ムと排他主義の台頭、民族対立の激化などが顕
在化し、個々の思想が複雑に影響し合う時代に
突入しています。そうした中で京都の経済をよ
り盛り上げるためには、これまでの延長ではな
く、より柔軟でダイナミックな対応が求められ
ます。世の中の動きを捉え、多様な価値観で適
切な情報を見極めること、そして常にチャレン
ジする姿勢を忘れず、独創的なアイデアで京都
一丸となって取り組むことが重要です。会員の
皆様のより一層のご理解、ご協力をお願いいた
します。
本年が皆様にとりまして、実り多き一年とな
りますよう、心よりお祈り申し上げます。

限りない夢を描き、変革し、創造する



副会頭
久芳 徹夫
京セラ株式会社
代表取締役会長

謹んで新年をお慶び申し上げます。
昨年は円高や訪日外国人消費の鈍化が影響
し、京都企業全体ではマイナス成長となりました
。そのような激変する環境の中で、会社を成
長させるには、守るべきものと変えるべきもの
を見極め、時代のニーズに合わせた変革と新た
な創造を果たすことが大切だと考えています。
私は、守るべきものは、それぞれの企業の
創業の精神や企業哲学であると考えています。
そして、その企業哲学が人間としてのあり方、
考え方に立脚したものであるならば、時代や経
営環境が変化しても変わるものではありません。
そのような不変の哲学を基軸として、事業
に限りない夢を描き、変革と創造を果たすこと
ができれば、いかなる時代であろうと、必ず成
長発展を遂げることができると考えています。
本年も微力ながら、副会頭として尽力してい
ます。ご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

京都が担う伝統産業の役割



副会頭
野瀬 兼治郎
啓明商事株式会社
代表取締役社長

新年あけましておめでとうございます。
皆様におかれましてはつつがなく新年をお迎
えのこととお慶び申し上げます。
2020年の東京オリンピック・パラリンピッ
クの開催は、日本の伝統文化、歴史を全世界にア
ピールできる絶好のチャンスであり、京都が担う
役割が非常に重要になってきています。
また東京の一極集中から地方に分散していく
第一歩として決定した文化庁の京都移転は、文
化と伝統産業が切っても切り離せない関係から、
京都が全国から大きな注目を浴びています。
そして3年後に完成する京都経済センター
(仮称)はオール京都からの重要な情報発信拠点
として、また新たな和装の情報発信拠点として
の役割も果たします。京都が担う伝統産業の役
割をクローズアップさせ、京都経済全体のブラ
ンド力を高めてまいりたいと思っております。
本年が皆様にとって良い年でありませう、
ご祈念申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

京都ブランドに触れる機会の創出を



副会頭
塚本 能文
株式会社コールホールディングス
代表取締役社長

新年を迎えるに当たり、謹んでお慶びを申し
上げます。
昨今の京都人気は、年々高まっているように
感じます。街中や駅周辺は常に多くの人で賑わ
い、京都ならではの観光名所である社寺等も、
観光客の増加で混雑に悩むほどと聞きます。事
実、平成27年度の京都市を訪れた年間観光客数
は5600万人を超え、過去最高を記録してい
ます。
今後さらなる京都の発展を目指すためには、
混雑対応など京都内の環境整備に加え、世界を
含めた京都外でも「京都ブランド」に触れる機
会を創出することが重要だと考えます。それが
京商ビジョンNEXTで掲げられた「世界交流
首都・京都」の実現に繋がると信じ、副会頭の任
を務める所存です。
本年が皆様にとって幸多き一年となりますよ
う、心よりお祈り申し上げます。

あけましておめでとうございます



副会頭
服部 重彦
株式会社島津製作所
相談役

日本文化の国際的な研究機関である国際日本
文化研究センターが京都に設立されて今年で30
年になります。京都に設置された理由の一つに、
東京を中心として政治的な影響を受けることな
く、学際的な研究を重要とする京都学派の強い思
いがありました。折しも念願であった文化庁の
京都移転が決定し、春には地域文化創生本部(仮
称)を設立して移転先の絞り込みなどを行い、
全面移転に向けた具体的構想が決まります。ま
た、計画中の京都経済センター(仮称)は、新た
なネットワークの創出やオープンインベシヨ
ン、産学公連携などを通じて今までにない価値
の創造を目指すことで知恵産業のまち京都を推
進する情報発信の拠点となるべく計画が進んで
います。
今年が京都が飛躍するための重要な年となり
ます。官民一体となり、さらに魅力ある京都に
高めてまいりましょう。

府・市・商 一体となつて



副会頭
若林 卯兵衛
株式会社若林佛具製作所
取締役相談役

新年あけましておめでとうございます。
昨年の議員総会におきまして、副会頭に
ご推挙いただき、ありがとうございました。
工芸産業振興特別委員長を拝命したときよ
り、府市協調を実践すべく「不死鳥」「不死鳥」
「フェニックス」と毎月24日に「フェニックスサ
ロン」を非公式に開催して参りました。伝統産
業に関する事業を中心に、伝統産業担当の課長
さん方と打合せをし、二重行政にならないよう
に相談をしてまいりました。今回のお役でさら
にこのサロンを充実し、任期末には工芸産業を
中心に、全京都を挙げてアピール出来る事業を
実現したいと考えております。
会員皆様のご支援、ご協力をよろしくお願ひ
申し上げます。

京都・京商の未来に向かつて



専務理事
奥原 恒興

新年明けましておめでとうございます。
昨年は、京都経済センター(仮称)の建設着工、
文化庁の京都移転決定、北陸新幹線の京都経由
決定と、未来の京都・京商にとって明るい希望
を抱ける1年となりました。しかし、これらを
実現に移していく上では多くの課題が待ち受け
ています。気を引き締めて一層の努力を重ねて
まいりたいと思います。
また、3年前から取り組んでいる「会員交流
充実プロジェクト」は、部会主催の取り組みを
はじめ、講演会、セミナー、研修事業など、京商
のすべての活動において、会員相互の交流に努
め、1年間で延べ1万6千名のご参加をいた
だきました。本年はさらに大きく輪を広げ、会員
の皆さまの人脈拡大、ビジネスチャンスの拡大
に努めてまいります。
本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

小売商業部会 部長



川勝 康行
株式会社川勝總本家
代表取締役社長

牛の涎は粘りがあってなかなか切れないことから、商いも粘り強く、地道に続けていく、お客様に笑顔を届ける、息長く地道に取り組みといった心得は、古びることなく、今の時代に相応しい体制に変革して、成長していくことが重要です。

卸売商業部会 部長



池本 周三
京都全魚類卸協同組合
理事長

「価値創造都市への挑戦」を掲げて立石会頭4期目がスタート致しました。京都市中央卸売市場の施設整備開始の1年であり、又全国で最初に90周年を祝賀できる1年でもあります。新卸売市場の創造実現に向けて取り組み決意です。

繊維・染織部会 部長



服部 正毅
服部織物株式会社
代表取締役専務

デフレ経済からサル年となり、飛躍へのトリ年へ。満杯となった筆筒にさらにもう一品を加えさせる物づくりこそ。部会員の知恵、工夫、努力で新しいマーケットの創造を期待しています。

電機・機械金属部会 部長



村田 恒夫
株式会社村田製作所
代表取締役社長

常に変化していく経営環境に順応し、京都企業の技術力を世界に発信すると共に、企業責任である環境・社会・文化の発展に貢献すべく気持ちを新たに頑張ります。

建設産業部会 部長



岡野 益巳
株式会社岡野組
代表取締役社長

京都の建設産業は、脈脈と続いていく技術を継承すると共に、今後も京都の発展と度重なる激甚な災害に対しても府民の安心安全の守り手として、社会貢献を果たしてまいりたいと思っております。

食品・名産部会 部長



平井 義久
株式会社西利
代表取締役会長

恒例の「食のつどい」も第9回を迎えます。今年のテーマは「みりん」。京の食文化、京都ブランドの更なる発展を願います。地域開発・都市整備委員長としては、梅小路新駅、北陸新幹線の小浜・京都ルートの実現が初夢です。

化学部会 部長



大柳 雅利
第一工業製薬株式会社
相談役

化学部会員の知恵の連鎖により、今まで以上に活発な部会運営を目指し、会員の、会員による、会員のための部会であることを肝に銘じ、少しでもお役に立てるようになりたいと思います。

生活産業製造部会 部長



井上 正英
関西電力株式会社京都支社
執行役員 京都支社長

「京商ビジョンNEXT」実現のお役に立てるよう、また会員の皆様のお役に立てるよう、情報交換の輪を広げ、交流・連携を深めて、部会運営の充実に努めてまいりたいと思っております。

観光・運輸部会 部長



田中 誠二
株式会社キャリアエール・インターナショナル
代表取締役社長

京都が世界中からファーストコールされる魅力ある都市であり続けるため、オール京都で心ひとつに、人の和の広がりを大切に京都のおもてなし力向上にまい進してまいります。

金融部会 部長



白波瀬 誠
京都中央信用金庫
理事長

新年あけましておめでとうございます。金融部会では京都経済の発展に向け、幅広い分野から事業者ならびに地域の皆さまをサポートし、日々の研鑽を重ね尽力してまいります。

文化情報部会 部長



納屋 嘉人
株式会社淡交社
代表取締役社長

当部会は、全国の商工会議所に先駆けて「文化」を部会名に付け、活動してまいりました。内外のご意見を広く頂戴し、部会員一同その名に相応しく文化情報からの京都発展に尽力させていただきます。

サービス産業部会 部長



齋藤 茂
株式会社トーセ
代表取締役会長

昨年は英国のEU離脱・米国のトランプ新大統領の登場と『予想外』の年でした。しかし、我々の業界にAR・VR・IoTの時代は確実にやってきます。チャンスは積極的に掴むのみ！